



2019年3月号 Vol.6

編集者 布谷

北海道はまだまだ寒いですが、暦の上では春となりました。今年もサイクリングロードの桜並木が楽しみです！

春になる前にノミ・マダニの予防についてご紹介します！

ノミ・マダニは年中活動しており（寒いと活動性は低くなります）雪解けで久しぶりの地面をるんるんお散歩しているワンちゃんにはマダニが…！
お家の寝床でうとうととしているネコちゃんにはノミが待ち構えているかもしれません！

噛まれると痒く、皮膚炎の症状が出るのはもちろん、様々な病原体を持っています。

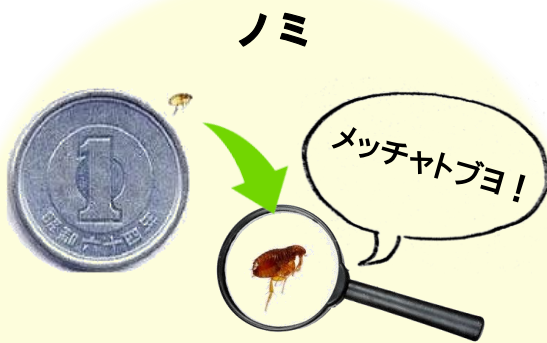
人にも感染するSFTS（重症熱性血小板減少症候群）は全国的なニュースにも取り上げられていました。
SFTSウイルスを持っているマダニに噛まれたワンちゃんに触れ、マダニを無理に引き抜こうとすると感染する恐れがあります。
昨年、旭川市では人がマダニに直接噛まれることによって感染するマダニ媒介脳炎の発症報告がありました。

“駆除”よりも噛まれる前に“予防”をしていくことが大切になります。

予防のQ&A ノミ・マダニ編

? ノミ・マダニってどんな虫?

犬・猫の体の表面から血を吸う小さな寄生虫です。
非常に小さいですが、体内に多くの病原体を隠し持つ恐ろしい“運び屋”なのです！
マダニは気温15度で活発に動き、ノミは気温13度以上あれば孵化します。
北海道では年々温暖化の影響で気温が上がり、春先は特に警戒しなければなりません。



茶褐色で約3mmと小さく、動物の毛の間を逃げ回ります。
後足が発達していて体長の60倍の高さ、100倍の距離を跳ぶ事が出来ます。

マダニ

5~10mm程度の大きさで肉眼でもはっきりと確認出来ます。
吸血後には体長や形が大きく変わります。
ノコギリのような歯を皮膚に押し込み、セメント状の物質を分泌しがっちり固定します。



昨年ではノアの近くの公園にも潜んでおり、約5頭のワンちゃん達がお散歩中にマダニに噛まれ病院にやってきました…

? 予防はどうするの?

基本的には1ヶ月に一回、予防のお薬を使います。

首の後ろに垂らす「液体タイプ」

美味しい「おやつタイプ」などがあるので、

生活環境、好みに合わせて選択しましょう！

市販タイプは“医薬部外品”のため、しっかりとした予防効果が発揮されずシャンプーしてしまうと効果が無くなるものもあります。

動物病院で処方する予防薬は“医薬品”のため90%以上の予防効果があります。

液体タイプも使用方法を守ればシャンプーしてもOKです！



? もし家の子についていたら…! ?

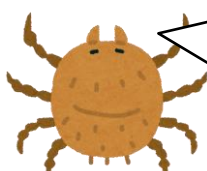
ノミ本体を探すのは難しいですが、黒っぽい小さな粒があれば要注意です。

湿らせたティッシュの上に黒い粒を置いてみましょう。

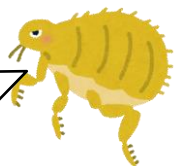
もし溶けて赤茶色になったらその正体はノミの糞！寄生している証拠です。

マダニがもしついていても絶対に無理にとってはけません！

皮膚に噛み付いている歯が残ってしまい化膿する恐れがあります。



特に好きな所は
毛の少ない耳や目のまわり
内股、お尻かな～



湿ツタ所や
部屋ノ角ッコ
ベット、絨毯スキ!